

刊行にあたって

平成 30 年度診療報酬改定で新病名として認められた口腔機能低下症は、高齢者に限った疾患ではない。これは口腔機能の低下の原因が、老化だけではないことを表す。口腔機能低下症は、う蝕や歯周病、義歯不適合などの口腔の要因に加えて、加齢や全身疾患によっても口腔機能が低下しやすく、また、低栄養や廃用、薬剤の副作用等によっても修飾されて複雑な病態を呈することが多い。したがって、形態の回復、機能の管理を行うだけでなく、全身状態、栄養状態、生活習慣の改善なども行う多面的なアプローチによる歯科医療が必要となる。本書では、これから口腔機能低下症に対応しようという方々のために、その方面のエキスパートによって丁寧に解説されている。

口腔機能低下症への対応が保険に収載されるにあたっては、一般社団法人日本老年歯科医学会が、2016 年に学会誌とホームページに公開した「高齢期における口腔機能低下症—学会見解論文 2016 年度版—」を参考にしている。したがって、執筆は日本老年歯科医学会の関係者にお願いした。また、保険収載にあたっては、使用される用語や機器が、学会見解論文とは少々変更されているが、本書はそのことも加味して記載してある。

本疾患の診断や対応も新しい考え方なので、ぜひ本書を熟読して、今後の歯科医療に役立てていただきたい。それによって、歯科医療が国民の健康寿命延伸の一助になると確信している。

口腔機能低下症の理解が深まることを願って

2018 年 12 月
東京歯科大学 老年歯科補綴学講座
櫻井 薫